

## Smart Times

最近はこのスーパーの野菜売り場でも「ブロッコリースプラウト」を見かける。スプラウトとは発芽直後の野菜のことだ。日本のスプラウトといえば「かいわれ大根」がある。過去に

は食中毒の感染源と疑われたことがあり、生産事業者は次々と倒産した。国内シェア首位だった村上農園も危機を迎えたが、全社一丸となり、発芽栽培の技術を生かした新たな商品開発に取り組んだ。そし

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート（現リクルートホールディングス）入社。首都圏営業部長などを経て95年にインターウォーズ事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

て誕生したのがエンドウ豆 ポール・タラレー博士を訪の若菜「豆苗（とうみょう）」ねるが、門前払いの日々だ。安価で栄養豊富な野菜 続いた。2年を超えて粘りである豆苗はヒットし、倒 強く交渉を続け、発芽野菜産の危機を脱した。 栽培のノウハウを持つこと 村上農園は新たな商品の や、かいわれ大根の国内ト

という全く新しい消費。パター ンをつくり出した。 情報があふれるインター ネット社会では、人の心を 動かすブランドに育てるこ とが肝要だ。村上農園は当 時一般的でなかった英語の sprout から「スプラウト」に名称を変え、人 なる災害もあり、野菜の価 格高騰への危機感強い。 海外依存度が高いほど、国

## スプラウトのストーリー

実際勢によっ て輸入制限が 起り、食料 不足に陥るリ

情報を求め、ブロッコリー ツプ企業であること、野菜 のスプラウトが米国で注目 を通じて人々の健康に役立 されていることを知る。ブ ちたいという熱意を伝え ロックリースプラウトに含 た。これで独占的に生産販 売する権利を獲得した。 至るストーリーをメディア 情報に左右されずに安定し 環境を制御し、災害や国際 工場は光や気温などの生育 食料問題はエネルギーや 環境・医療課題とも結びつ 況から活路を求め、ブロッ コリースプラウトのがん予 防効果を知り、生産販売に 食中毒騒動による極限状 スクは大きくなる。

村上農園はプロックリー やホームページで伝えて興 味と関心と呼んだ。この物 語が多くのメディアで取り 上げられて健康志向の人々 が共感し、生産が追いつか ないほどのブームを起し 康に貢献している。

「なんとなく体に良さそう な野菜」ではなく「がん予 防のために摂る野菜」とい う機能性目的で野菜を買っ てるためライセンスを持つ